

ひとと

特色のある公園づくりを サクラ公園やつつじ公園

噴水からはじき出されるようにして、落ちて他の水と交わる瞬間の音に耳をすますいつときもあれば、こどもたちがどこ狭しと遊びまわり、若者たちが語り合い、そして、老人が腰を伸ばしてひと休み――。公園はいろいろな人たちが、いろいろな方法で利用する。

緑化運動が市の重点施策として取り上げられてから、あちらこちらにいいの

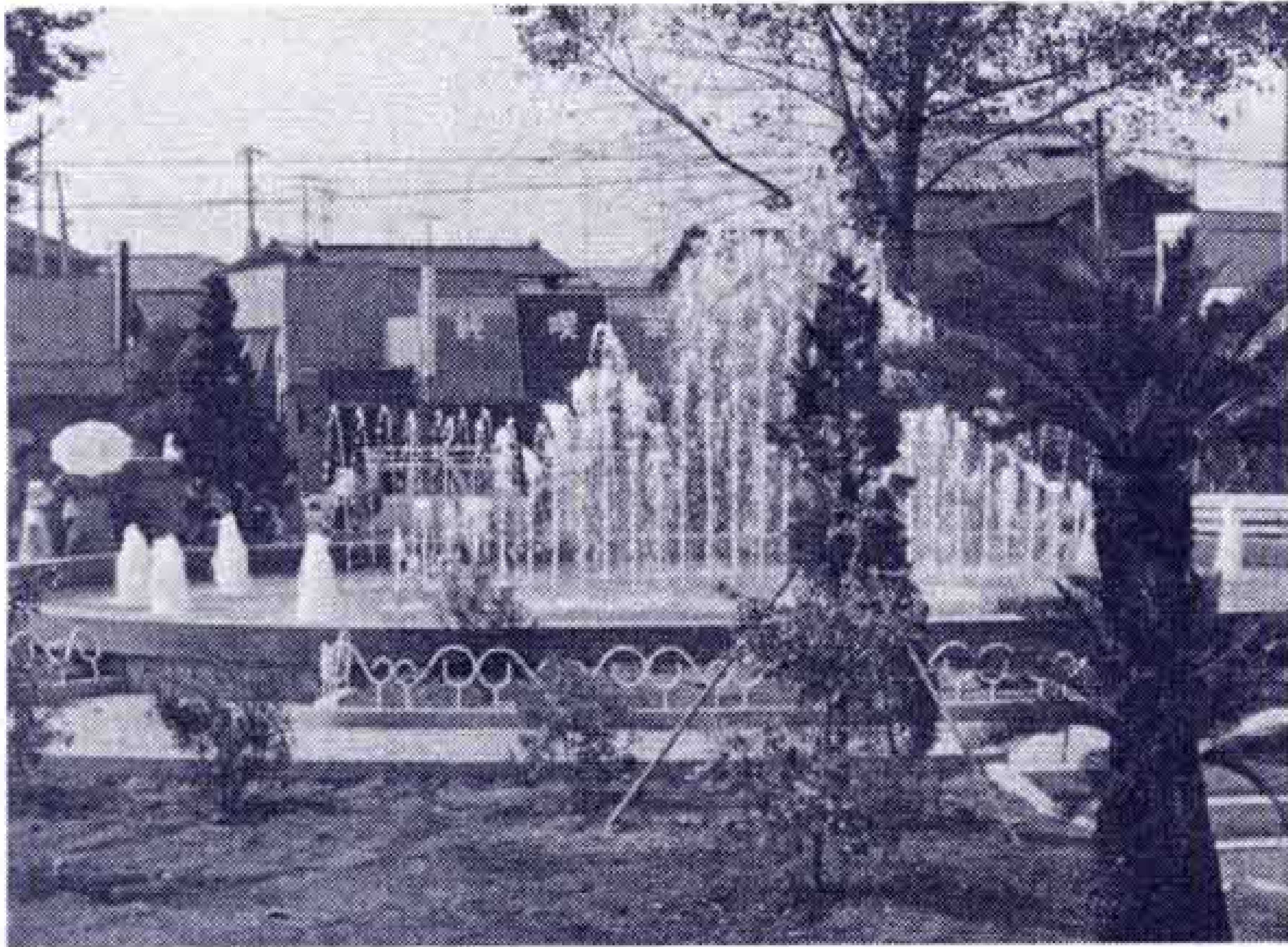
場所としての公園ができつつあるが、どの公園をみてもなんとなくもの足りなさを感じるの、私だけではないだろう。現在ある公園は周囲に木を植えたり、花を咲かせたりしてはあるが、どの公園も同じ型のように思える。あまり利用されてはいないのもそのせいではなかろうかそこで、ただ花や木を植えるだけでなくそれぞれの公園に特長を持たせたらどう

だろうか。たとえば「つつじ公園」とか「さくら公園」などと銘うつて、いろいろな品種のつつじやさくらをあふれるように咲かせるのも一つの方法だ。そうすれば、道行く人の足を止め、興味をそそり、今日はつつじを明日はさくらを見に行こうという気持ちになり、公園を身近に感じるようになるだ

ろう。また、市の名所として親しまれることにもなる。

ひとつひとつの公園が、それぞれの特長を持ちながら生活の中に溶け込んでいき、親しまれるものであるならば、単なる公園として終ることなく、心の触れ合う広場となるだろう。ちよつとしたアイデアを盛り込んでの公園づくりをすることにより、今以上に親しまれ利用されるものになると信じる。

(吉原3丁目・山田)



【町の中のオアシス 平垣公園】

鳩は正しく飼つ てください

最近、鳩が農作物を食い荒らしたり、洗たく物をよごしてこまるという苦情が市民相談室に多く来ています。

これまでに、被害を受けているおもな農作物は、まいたばかりの豆類のタネや野菜の新芽などです畑の中へ舞いおりて来たのを、おい払つても、近くまで行かなければなかなか逃げません。

農家は大変迷惑をしていますから、飼い主の皆さん、ハトの管理には十分注意してください。



アメシロは5月と7月に発生

緑を食い荒らす「アメリカシロヒトリ」は越冬したサナギが5月に卵をうみ6月になると活発に活動をはじめます。アメリカシロヒトリは、大喰いで繁殖力が強く、いつたん発生すると猛烈な勢いで増えます。これまでに市内で被害を受けていないのは、大淵地区と須津以東の

地区だけです。ほかの地区では相当の被害が出ています。

アメリカシロヒトリは年2回発生します。第1回目の発生は5月、第2回目は7月中旬ごろからで、9月になるとサナギになり越冬します。産卵は幼虫の餌になる植物(2~3葉以上)の葉裏に、直径1mm

たらずの淡緑色をした粒を400~700個、多い時には1000個以上を産むこともあります。特に、学校や公園、神社、工場など大きな木(3葉以上)が集まっているところに発生します。

被害を受ける植物は、常緑でかたい植物以外はほとんどです。なかでも果樹ではカキ、梨、イチジク、ブドウなど、樹木ではプラタナス、ヤナギ類、キリ、ポプラ、ヒメリンゴ、イチヨウ、シラカバなどが被害を受けやすい植物です。

駆除は、小さな幼虫が集団で葉肉の部分を食べる時期(表皮と葉脈を残す)が一番です。また、この時期が最も見つけやすい時です。下から見ると葉色も変わり白くスカシ状に見え、幼虫が互いに糸をはき葉を巻き込み巣の中で集まっています。駆除の方法は、巣の部分を枝葉ごと切り取つて焼いてしまおうか、DDVP乳剤を散布するかのどちらかです。なお高い木の上で枝を切れない場合などは、棒の先に油布を巻き火をつけて焼くのもひとつの方法です。

アメリカシロヒトリの発生順序

